

って左にトラバースすれば行けそうに見える。手嶋さんは左の乾いた岩棚に登っていくのが良いというのがその取り付きは立っている。結局右の草付きを登って上部まで行き、弱点を探すが上部ほど傾斜がきつく、岩壁になっているため、少しくだって灌木帯から巻くことに。木はあるものの結構な傾斜で上部ではまた岩壁となるため小さなバンドを伝わってのトラバースとなる。自分にとってはヒヤ汗ものの所もあって緊張した。最初高さ60mとメモに書いたが80m位はあるかもしれない。

大滝の上は穏やかな溪相に戻る。二俣は左に取っていくと沢を小道が横切っている。八十里越である。自分のイメージよりは狭く、普通の山道と変わらない。でも徐々に幅は広くなり良い雰囲気になる。小説「峠」の戸板で会津に抜けた一節を思い、その苦勞を偲んだ。膝が痛くて遅れ勝ちになるが1時間ちょっとで吉ヶ平に着いた。

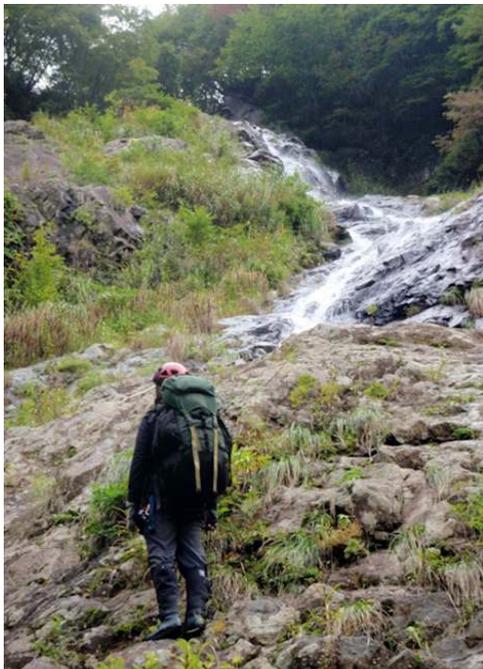
計画よりは大幅な短縮だったが大滝は思った以上のアルバイトであったし、宴のひとときも思った以上の楽しさだった。帰ってから膝がかなり痛くなったので短縮して正解だったようである。大滝は手嶋さんがメールで書かれていたように登攀力のある人であれば登ることが出来そうである。見た目よりは悪そうですが。

お二人には年寄りに付き合ってもらい、ありがとうございました。

【行程】 9/30 吉ヶ平出発(13:25)～守門川BP(14:50)

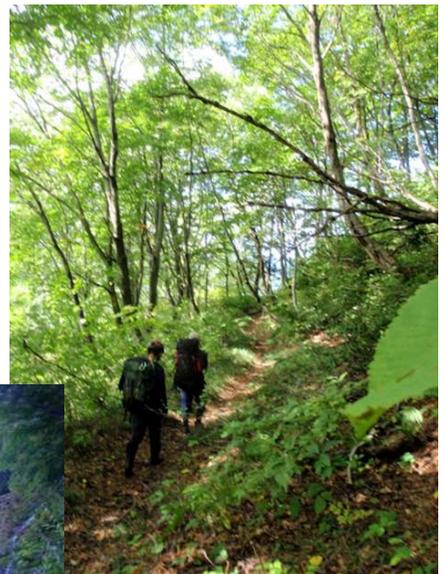
10/1 BP(8:00)～大滝沢出合(8:15)～大滝下(9:00)～八十里越(10:40/11:00)
～吉ヶ平(12:15)

【地形図】 守門岳



大滝

下から見ると登れそうだが、上部は傾斜がきつい。(右)



八十里越の道に行く